

高等学校における
キャリア教育プログラムの
策定に向けて

平成26年3月

三重県教育委員会事務局 高校教育課

CAREER EDUCATION PROGRAM

はじめに

三重県教育委員会では、三重県教育ビジョンに基づき、子どもたち一人ひとりが主体的に学習に取り組み、社会人や職業人として自立するために必要な能力や態度、知識を身に付けられるよう様々な取組を進めています。

そのような中、平成24年度から、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、一体となって子どもたちの学力を育ていく、「みえの学力向上県民運動」を展開しています。この県民運動では、三重の子どもたちに育みたい力を、「自らの夢の実現をめざし、失敗を恐れずに主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って輝く未来を切り拓いていく力」と「他者とのかかわりの中で、共に支え合い、新しい社会を創造していく力」としてしています。これらの力は、まさに、キャリア教育をとおして育まれるものであることから、県内の全ての学校において、教育活動全体でキャリア教育を進めていく必要があります。

そのためには、キャリア教育を学校全体で組織的かつ系統的に進めていくことが必要であり、また、学校や地域、子どもたちの実態に応じた全体計画と、子どもたちに身に付けたい能力や態度の到達目標を明確にした年間指導計画を策定することが必要です。

そこで、県教育委員会では、県立高等学校7校のキャリア教育担当者等の協力を得て、各高等学校における全体計画と年間指導計画の円滑な策定を進めることを目的として、各校のキャリア教育プログラムのベースとなるモデルプログラムを作成しました。

本モデルプログラムは、各校におけるキャリア教育で中心に据えている活動を相互に結び付けるとともに、教科や分掌、諸活動でのキャリア教育の視点や取組等の例を1枚のシートにまとめて示しており、各校における、教育活動全体をとおしたキャリア教育の実践の参考にしていただけるものと考えています。本モデルプログラムが、各高等学校において広く活用されることで、各校におけるキャリア教育が、より一層充実することを期待しています。

最後になりますが、本プログラムの作成にあたって、ご多忙の中を、細部にわたりご検討いただきました皆様に、心よりお礼を申し上げますとともに、キャリア教育の充実が、本県の子どもたちの輝く未来につながることを願っています。

平成26年3月

三重県教育委員会事務局
学習支援担当次長

Contents

- キャリア教育とは** 1
キャリア教育の定義や、高等学校におけるキャリア教育の現状と課題を確認します。
- 三重県におけるキャリア教育** 2
三重県のキャリア教育の考え方や、今後の方向性等について説明しています。
- 三重県における地域との連携** 3
キャリア教育を進めていくうえで重要となる連携方策等について説明しています。
- 三重県版高等学校キャリア教育プログラムとは** 4
三重県版高等学校キャリア教育プログラムの特徴について説明しています。
- 三重県版高等学校キャリア教育プログラムの構成** 5
三重県版高等学校キャリア教育プログラムの構成について説明しています。
- モデルプログラムの特徴** 7
P.8からP.10で示す3つのモデルプログラムにおけるコアプログラムの特徴等を説明しています。
- 三重県版キャリア教育モデルプログラム** 8
「進学型」・「進路多様型」・「就職型」の3つのモデルプログラムを示しています。
- モデルプログラムにおける個別活動について** 11
- プログラムの策定に向けて** 14
プログラム策定に向けて、必要な考え方について示しています。
- プログラム策定のための準備シート** 15
プログラム策定にあたり、教職員一人ひとりが自校のキャリア教育について考えるためのシートです。
- 三重県版キャリア教育プログラムシート** 16
各高等学校でプログラムを策定する際に使用するシートです。

キャリア教育とは

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリアとは

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。（中略）

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だし、いく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

*社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

キャリア教育で育みたい力

社会的・職業的自立や学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素

専門的な知識・技能

勤労観・職業観等の価値観

意欲・態度

創造力

論理的思考力

社会形成能力

基礎的・汎用的能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

基礎的・基本的な知識・技能

<出典>中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）

基礎的・汎用的能力とは

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

*この能力は、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取舍選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

<出典>中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）

高等学校におけるキャリア教育の課題

キャリア教育の理解が十分に図られていない

「基礎的・汎用的能力」をよく知らない・聞いたことがないホームルーム担任：72.8%

教育活動全体をととした活動が不十分である

キャリア発達を意識した教科の授業を実施していない学校：22.3%

<データの出典>キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査（平成24年11月 国立教育政策研究所）

計画を策定している学校が少ない

全体計画を策定していない県立高校（全・定）：61.8%
年間指導計画を策定していない県立高校（全・定）：44.1%

<データの出典>平成25年度キャリア教育に関する取組状況調査（平成26年2月 高校教育課）

三重県におけるキャリア教育

三重の子どもたちに育みたい力

自立する力

自らの夢の実現をめざし、失敗を恐れずに主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って輝く未来を切り拓いていく力

共に生きる力

他者とのかかわりの中で、共に支え合い、新しい社会を創造していく力

〈出典〉三重県教育ビジョン（平成23年3月 三重県教育委員会）

「みえの学力向上県民運動」と キャリア教育との関わり

本県では、次世代を担う子どもたち自身が、主体的、創造的に生き、社会に参画し、その発展を支え、他者とともに人生を豊かなものにすることができるよう、「みえの学力向上県民運動」を実施しています。この県民運動の視点の1つである「主体的に学び行動する意欲を育てること」を踏まえた取組にキャリア教育の充実があります。

取組の視点① 「主体的に学び行動する意欲」
～夢や目標のもてる人づくり～

取組の視点② 「学びと育ちの環境づくり」
～多様な主体による様々な学びの場づくり～

〈出典〉みえの学力向上県民運動（平成24年 三重県教育委員会）

三重県における キャリア教育の充実に向けた基本的な考え方

三重県のキャリア教育にかかる基本姿勢

本県では、すべての教員が、子どもたちに、「働くことは素晴らしい社会づくりに貢献するという意義があること」等を確実に伝えるとともに、子どもたちの望ましい勤労観・職業観を育むことをキャリア教育の基本としています。そして、教育活動全体をとおして、汎用性のある学力やコミュニケーション力、規範意識、男女共同参画を重んずる態度など社会的・職業的自立に必要な能力の育成を図ります。

組織的・系統的なキャリア教育の推進

子どもたちの発達段階に応じた到達目標や学習内容を明らかにし、その連続性に留意した学習プログラムを確立することにより、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。

職業を体感できる機会の充実

子どもたちが働くことや職業についての理解を一層深め、確かな社会性を身につけることができるよう、子どもたちが職業を体感することのできる機会を積極的に創出します。

今後の基本的な取組の方向

- 教育活動全体を通じたキャリア教育の拡充・深化
- 組織的・系統的なキャリア教育の推進
- 家庭・地域・行政等との連携の推進
- 専門性を生かした職業教育の推進
- 就職支援の実施

〈出典〉三重県教育ビジョン（平成23年3月 三重県教育委員会）

三重県における重点的な取組

組織的・系統的なキャリア教育の推進

児童生徒が将来自立した社会人として社会参画できるようになるために、校種相互や、学校と地域が連携したキャリア教育を推進します。

学校と地域の接続

○大学や研究機関、事業所等の外部教育力を活用したキャリア教育の推進

小中高等学校の接続

○12年間のキャリア教育プログラムの開発
○異年齢交流の推進

プロフェッショナルから学ぶ機会の創出

社会で活躍する卒業生等による授業「三重県版ようこそ先輩」や、職業人を間近で観察して、働く思いに深く触れる「しごと密着体験」等、児童生徒が主体的に進路を選択する能力や意欲を高めるとともに、自らの在り方生き方を考える機会を創ります。

三重県版ようこそ先輩

しごと密着体験

職業を体験する機会の充実

高校生が、進路選択について主体的に取り組むことができるように、将来進む可能性のある仕事や職業を試行的に体験する機会の充実を図ります。

インターンシップ

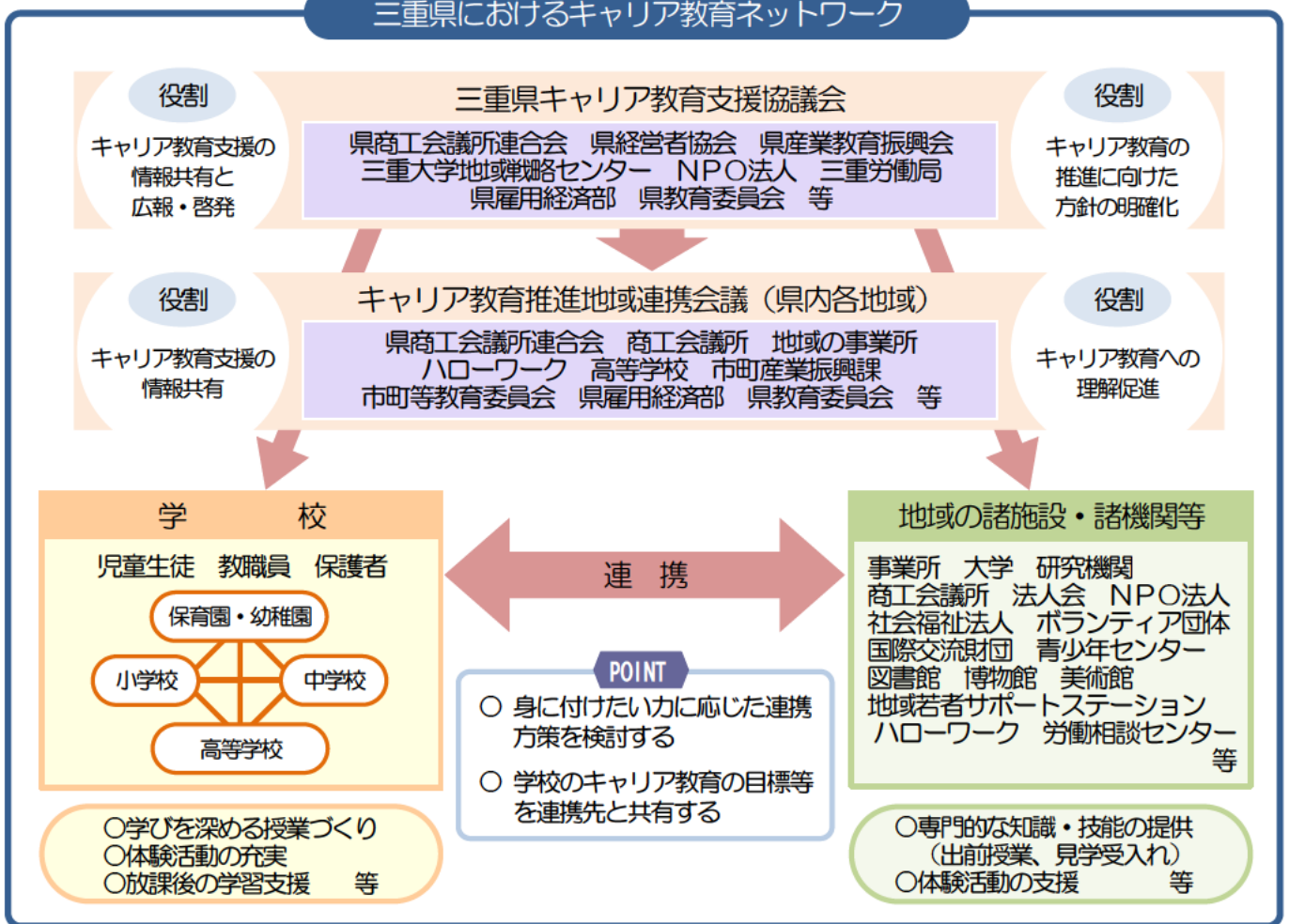
デュアルシステム

三重県における地域との連携

学校と地域の諸施設・諸機関等が、協力してキャリア教育を進めていくためには、それぞれの展開している活動内容を相互に理解しながら、信頼関係を築くことが必要です。また、学校や地域の実態、活動の内容等によっては、コーディネーター役を担う機関等との連携を図ることで、地域と連携したキャリア教育をより円滑に進めることができます。各学校においては、キャリア教育を推進するために、様々な機関等との協力関係を築き、一体となった取組を進めていきましょう。

なお、本県においては、「三重県キャリア教育支援協議会」や「キャリア教育推進地域連携会議」を組織し、学校と地域が連携したキャリア教育の方策を検討する等、学校と地域の接続のための環境づくりを行っています。

三重県におけるキャリア教育ネットワーク



各機関が行うコーディネート・支援の例

県商工会議所連合会・商工会議所 ○就業体験のコーディネート ○就業体験の受入事業所開拓	県経営者協会 ○産学就職情報交流会の運営	県産業教育振興会 ○キャリア教育への支援 ○職業教育への支援	三重大学地域戦略センター ○キャリアアップセミナーの運営 ○大学の知的財産の還元
NPO法人 ○就業体験のコーディネート	三重労働局・ハローワーク ○学校での進路ガイダンス等への協力 ○地域の事業所に関する情報の提供	県雇用経済部 (おしごと広場みえ) ○労働教育に関する情報・教材の提供 ○若者の就労支援	県教育委員会 ○キャリア教育の推進 ○関係機関との調整

三重県版高等学校キャリア教育プログラムとは

各高等学校において、キャリア教育の充実を図るためには、指導計画を立て、組織的・系統的に取り組む必要があります。各校においては、三重県版キャリア教育プログラムシート（本冊子 P.16・17）を活用して、キャリア教育プログラムを策定し、キャリア教育についての意義の共有化と、組織的・系統的なキャリア教育の充実を図ってください。

なお、各校におけるプログラム策定時の参考にしていただけるよう、学校の実態に応じて、「進学型」、「進路多様型」、「就職型」の3タイプのモデルプログラムを例示しています。

三重県版高等学校キャリア教育プログラムの特徴

「全体計画」と「年間指導計画」の2つの要素を併せ持っています

各校におけるキャリア教育の目標や具体的な活動内容を全教職員で共有できるようにするために、キャリア教育を進めていく上で必要となる「キャリア教育の全体計画」と、その全体計画を具現化するための「年間指導計画」の2つの計画の必須要件を1枚に収められるようにしています。

教科担当・分掌担当・部活動顧問の3つの役割を意識して構成しています

教育活動全体をとおした組織的なキャリア教育の実現を図るために、教職員が、教科担当・分掌担当・部活動顧問のそれぞれの立場で、生徒のキャリア発達にどのようなねらいをもって、どのように関わっていけば良いのか、校内で議論し深めたことをまとめられるよう構成しています。

個別の活動をつなぎ、系統化した取組を可視化しています

系統性のあるキャリア教育の実現を図るために、キャリア発達に係る諸活動相互の関連をフローチャートで表すことで、個別の活動のつながりを把握しやすくしています。

高校生活と、高校入学前や高校卒業後の生活との接続を意識して構成しています

中学校生活から高校生活へ、高校生活から大学生活や職業生活等への円滑な移行を図るために、中学校への働きかけや高校卒業後の接続に関する取組をまとめられるよう構成しています。

三重県版高等学校キャリア教育プログラムの構成

① 将来の姿

高校あるいは大学等を卒業した後の社会生活における生徒の姿を「将来の姿」として設定します。将来の姿を目標とすることで、生徒の社会生活における在り方生き方につながるキャリア教育の展開を図ります。

② キャリア教育をとおして身に付けたい力

「将来の姿」の実現に向けて、高校時代にどのような力を身に付けることが必要なのかを、学力と基礎的・汎用的能力の5つの観点について設定します。
※基礎的・汎用的能力については、P.1を参照してください。

③ 入学前の働きかけ

中学生が高校生活に円滑に移行できるようにするための、高校の教員や高校生による中学生を対象とした活動を記述します。

④ コアプログラム

「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」、「ホームルーム活動」等の中で、学校が中心に据えている活動を洗い出し、フローチャートで表します。

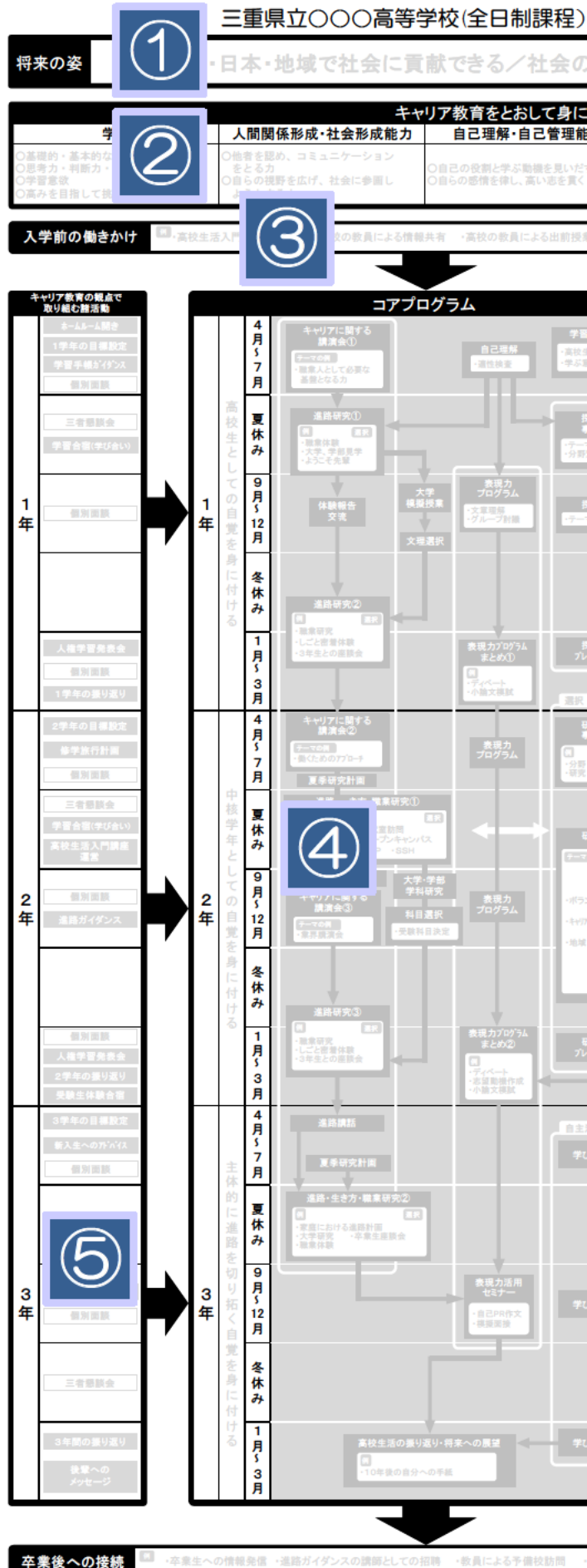
※モデルプログラムでは、活動の例等が示されていますが、各校でプログラムを策定する際、活動内容について共通理解が図られている場合は省略します。

★コアプログラム：各学校におけるキャリア発達に関する活動の中で、学校が中心に据えている活動の計画

⑤ キャリア教育の観点で取り組む諸活動

コアプログラム以外で、生徒のキャリア発達に深く関係する諸活動を記述します。

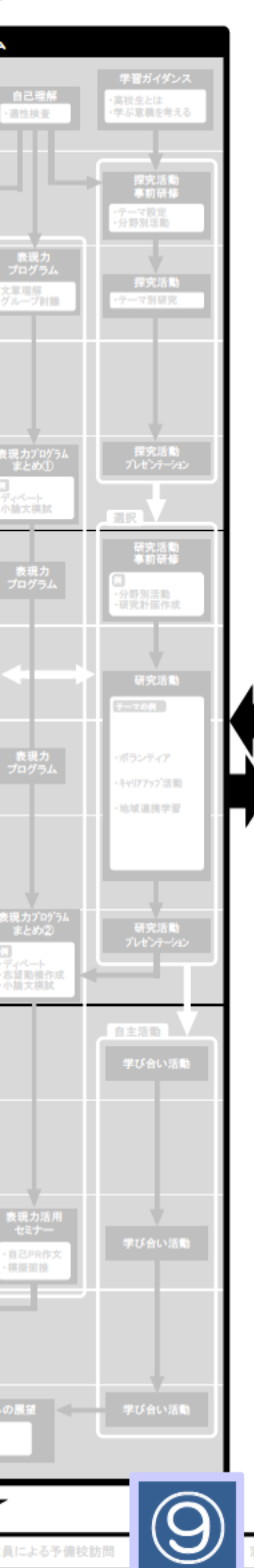
※モデルプログラムでは、各分掌が計画して行う継続的な取組については、⑦の「生徒への関わりから見た分掌の取組」に記載しています。なお、個別面談や三者懇談会は、継続的に行われるものですが、生徒のキャリア発達を促す大切なキャリアカウンセリングの機会として意識するために、他の活動と区別して記載しています。



全日制課程) キャリア教育プログラム

生きる/社会の中で、自分らしい生き方ができる		将来の姿
教育をとおして身に付けたい力		
自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
役割と学ぶ動機を見いだす力 感情を律し、高い志を貫く力	○知的好奇心に基づいて課題を発見する力 ○より良い手段で課題を解決する力	○生きることと働くこととの関係を理解する力 ○社会貢献に向けて自らの将来を設計できる力

各校の教員による出前授業・生徒の授業交流



キャリア教育の観点から見た教科のねらい	
学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能 思考力・判断力・表現力 学習意欲 専門的な知識・技能
人間関係形成・社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と共に学び合うことで、他者を尊重し、互いに成長させる。 他者と協力して、効率よくデータを処理することで、他者とのコミュニケーションを図る力を身に付ける。 さまざまな情報化社会の在り方を理解し、現在の課題について他者と対話し、意見を発表する方法を学ぶ。 職業活動を通じて感じたことを紙で話し合い、互いの価値観や感性の違いを知る。
自己理解・自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> 自ら計画を立てて学習に取り組み、成果を振り返ってさらに自身の能力を高める。 自分の考えを正しく伝達し、相手の考えを正しく認識することで、自己理解につなげる。 広く社会の歴史や文化を学ぶことを通して、自分の考えや行動を振り返り、自己理解へつなげることができる。 現代社会の状況を把握し、自分と社会との関係を捉え、より良い行動ができる。
課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> 学びの中から課題を発見し、論理的に解決する術を身に付ける。 課題に対して段階的に段階を越えて分析することで、課題を科学的に解明する力を身に付ける。 外国語で与えられた命題を正しく理解し、適切かつ迅速に判断し、対応する力を身に付ける。 自己やチームの課題を踏まえて、有効な練習方法を考え、実践する力を身に付ける。
キャリアプランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことが、将来どのように役立つかわかり、自分の未来像と照らし合わせながら学習活動に取り組む。 現代社会の実情を学ぶことを通じて、自分を見つめ、将来に向けて行動する力を身に付ける。 健康な生活を送るために疾病や心身の機能についての理解を深め、ライフプランに役立てる。 生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己のより良い生活を主体的に考える能力を身に付ける。
生徒への関わりから見た分掌の取組	
学	ホームルーム活動の中で成長を実感できる力を生かすことができる学習経営を行う。
教	道徳実践に必要な学力を身に付けることができる授業を行う。
員	基本的な生活習慣と自律性を養うことができる学校生活の確立を支援する。
教	自己の適性に応じた進路を選択できるよう、生徒の学力分析と個に応じた情報提供を行う。
員	自治の生き方を尊重する態度や態度を養うことができるよう、人権を大切に学校の雰囲気づくりを行う。
教	自尊感情を養い、生き生きと学校生活を送ることができるよう、相談しやすい環境と支援体制をつくる。
員	社会人としての人間力を高めるとともに、行動力を身に付けることができるよう、生徒の主体的な企画・運営を支援する。
教	道徳実践に向けて健全な心身を保つことができるよう、担任と連携して健康チェックと適切な助産を行う。
員	学びを深めるための読書習慣を身に付けることができるよう、道徳実践に役立つコンテンツを提供する。
キャリア教育の観点から見た部活動	
学	部活動を通して、忍耐力や向上心、協調性を身に付け、読書習慣を醸成し、学習と部活動の両立を学ぶ。

このシートは、各校がキャリア教育計画を策定する際、必ず確認しておきたい要素で構成されています。各校においては、新たな要素を加えたり、構成を変えたりすることで、学校独自のキャリア教育の計画を策定してください。

6 キャリア教育の観点から見た教科のねらい

教科におけるキャリア教育の観点から見たねらいについて、学校や地域等の実状や生徒の実態に応じて、重点化・焦点化した内容を記述します。

- ※モデルプログラムでは、能力別に3教科ずつ提示していますが、学校の実態に応じて、記載する教科を検討してください。
- ※学校の実態に応じて、共通教科以外の教科についても記述してください。
- ※モデルプログラムでは、教科のねらいのみを記載していますが、具体的な活動を④や⑥に記述することで、校内での理解が進みます。なお、書ききれない場合は、各科目のシラバス等に記述してください。

○活動の例○

- 国語：小説の登場人物の心情について考えを深める話し合い活動
- 地理歴史：近代国家形成期と個人の生き方
- 公民：「雇用、労働問題」と「社会保障」
- 数学：客観的なデータ分析による物事の判断
- 理科：化学と人間生活とのかかわり
- 保健体育：ハンドボール（仲間と連携した動きを高める球技）
- 芸術：社会の諸問題を題材としたポスター制作
- 外国語：英文の登場人物の生き方から自己の生き方を考える活動
- 家庭：持続可能な社会を目指したライフスタイル
- 情報：携帯電話の必要性の有無を題材としたディベート

<参考>文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」（平成23年11月）

7 生徒への関わりから見た分掌の取組

学校の教育目標を踏まえつつ、各分掌の取組をキャリア教育の視点で見直し、生徒のキャリア発達と関連の深い取組について記述します。

8 キャリア教育の観点から見た部活動のねらい

部活動をとおした基礎的・汎用的能力の醸成について、ねらいを示します。活動の内容によって各部の目標は異なりますが、各校の部活動としての方向性を示します。

9 卒業後への接続

卒業生が、学生生活や職業生活に円滑に移行し、生き生きと活動できるようにするための、高校の教員等による活動を記述します。

モデルプログラムの特徴

モデルプログラムは、各校におけるプログラム策定時の参考にしていただけるよう、以下の3つを提示しています。

進学型

想定
の
学
校

ほとんどの生徒が、四年制大学への進学を希望しており、一般入試で受験する生徒の多い高校

口進学型は、生徒が、将来、社会で主体的に行動し、リーダーシップを発揮することができるようになることや、将来の人生設計ができるようになることを目的としたプログラムです。コアプログラムでは、論理的思考力や主体的に学ぶ力の育成をねらいとするとともに、職業意識の醸成等を目指し、生徒が幅広い視野で将来を見据えて学ぶ活動や仲間とともに学び合う活動等を取り入れています。

コアプログラムの特徴

- 1つ目の柱は、将来、必要となる力を理解し、伸ばそうとする意識や職業意識の醸成等を目指して構成された進路研究に関するプログラムで、大学生活や卒業後の職業生活を見据えた体験的な学習の機会も設けています。
- 2つ目の柱は、表現力や論理的思考力の育成を目指したプログラムで、自分の考えを書いたり、仲間と論じたりする活動が中心となっています。
- 3つ目の柱は、主体的に探究・研究する力の育成を目指したプログラムで、1年次の「総合的な学習の時間」における探究活動、2年次の選択による研究活動、3年次の自主活動としての学び合い活動から成っています。

進路多様型

想定
の
学
校

就職希望者と進学希望者が混在し、進学については、指定校推薦や一般推薦、AO入試等を活用して大学や専門学校を受験する生徒の多い高校

口進路多様型は、生徒が、高校3年間の学びをとおして、自らの将来の生き方を考え、高校卒業後の進路を主体的に選択できるようになることを目的としたプログラムです。コアプログラムでは、コミュニケーション能力の育成を目指し、他者の話を深く理解して聞く活動や、収集した情報を整理して発表する活動、学習成果や自己の考えを校内外で発信する活動等を取り入れています。

- 1つ目の柱は、自己の適性に合った進路選択を目的としたプログラムで、生徒が、自己分析や職業研究、進路研究等をとおして、自分の興味・関心や適職を考え、将来を見据えた高校卒業後の進路を明確にしていきます。
- 2つ目の柱は、自主的・体験的な活動を中心としたプログラムで、1年次の「個人研究」から、2年次の「インターンシップ」、3年次の「テーマ研究」へと発展していきます。
- 3つ目の柱は、社会への円滑な接続を目的としたプログラムで、「働くルール講座」や「プレゼンテーション学習」、「消費生活講座」等に取り組みます。

就職型

想定
の
学
校

ほとんどの生徒が就職を希望しており、進学については、指定校推薦やAO入試等を活用して大学や専門学校を受験する生徒の多い高校

口就職型は、生徒が、自己の適性に合った職業を考え、自らライフプランを構築できるようになることを目的としたプログラムです。コアプログラムでは、主体的に考え行動する力やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成を目指し、インターンシップ等の体験学習や自己実現のために必要なスキル等を身に付ける活動を取り入れています。

- 1つ目の柱では、「しごと密着体験」や「三重県版よろこ先輩」、「インターンシップ」等生徒の内面を刺激する体験学習を軸にして、キャリア形成を支援します。
- 2つ目の柱では、ボランティア活動や社会体験等校外での活動を選択して学べるようにすることで、心身の成長を促します。また、体験報告や「小・中学校への出前授業」等に取り組むことで、プレゼンテーション能力の向上やコミュニケーション力の育成等を図ります。
- 3つ目の柱では、「働くルール講座」や「マネープラン講座」等、社会生活との関わりをとおして、職業人・社会人・家庭人としての意識を高め、地域に根ざした生き方ができる活動を盛り込みます。